

障がい児部会 報告書

会議名	第1回 障がい児部会		
開催日時	令和4年9月20日(火) 10時～12時		
開催場所	板橋区役所 北館11階 大会議室A		
出席者数	13名	傍聴者数	2名

報告事項(3件)

議題名	地域生活支援拠点等の整備について
概要	障がい児部会において、相談機能、緊急時の受入・対応機能について、連携体制を検討していくため、障がい児に関わる地域資源や区の状況を共有した。
主な意見・回答	・キーになるのは相談支援事業所だと思うが、障がい児の相談支援事業所が少ない、他相談支援機関と役割が重複している等の課題がある。また、児から者に移行する際、相談支援の中で受け渡していく連携も重要。 →拠点等を整備するうえで、相談支援事業所が重要と考えている。区立で事業所を増やすことはできないので、機会をみて事業所に協力を求めていく。児から者への連携について、他部会で計画相談につなげる取り組みとして、出前説明会を検討している。 ・障がい児の福祉サービス機能も大事だが、障がい児と判断される以前の未就学児相談の充実という広い視点で、相談機能を示していった方がよいのでは。 →未就学児の一般相談について、健康福祉センターが主で関わっているが、わかり難い部分もあると思うので、相談先など体系的に整理することも課題として捉える。 ○一般相談の充実について、区の委員にご意見を伺いたい。 ・健康福祉センターは5か所。発育発達に関する子育て支援、子育てに関する悩みなど、専門相談は、適切な機関に繋ぐ。個人差もあるため、個別支援として関わっている。 ・児童発達支援事業所の見学時など、最近は保健師の同行が少なくなっていると感じる。 →関わり方の方針に変わりないが、コロナ禍で手厚い支援が希薄になったと感じる。引き続き、そこは相談者と保健師とが関わらせていただければと思う。 ・児童館での乳幼児の関わりについて。26児童館ある。10館には専任指導員がおり、5館で発達プログラムを定期的に実施している。発達が気になるお子さんへのプログラム。親が自発的に気になっている方が対象。健診で発達を指摘され、不安になって参加する方が多い。専門機関に関わった方が良い人は繋ぐようにしている。 ・区立保育園では、在園児の方は障がい児に関わらず、支援している。要支援児について、様々な支援の仕方があるのが課題。要支援児のPTを立ち上げ、課題等の協議を行っている。 ・子ども家庭総合支援センターは、8時半から17時まで相談を受けている。他に子どもなんでも相談を365日24時間で受付けている。子どもなんでも相談は委託しているが、看護師、社会福祉士等が在籍している。子育てサポートは、事前登録制。子供を預かるなどしている。また、一時保護で、18歳未満の子どもを預かることができる。
今後の方向性	引き続き、既存の障がい児のサポート体制を確認し、未就学の時期における、一般相談の部分も含めて内容を整理する。

議題名	サポートファイルについて
概要	令和4年度中に導入予定。導入後に利用者の意見をふまえ、適宜、追加や修正など行っていく。
主な意見・回答	・特別支援学校の個別支援計画について情報提供。(都は個別の支援計画を学校生活支援シートと名前を変えて呼んでいる。目標等記載し、入学から卒業までの12年間、一貫したものを作成する。ファイルは、保護者と作成し、次の年代に渡す。学校以外に、医療や福祉も記載を行い、地域全体でサポートする仕組み。シートはファイルに綴じ、毎年の中身が増えていくように作成されている。加えて、高校受験などで支援が必要な場合などに、申請書と同時に提出している。) ・学校生活支援シートとサポートファイルが混在しているため、保護者の方への説明時に、保護者が不安にならないように進めていただきたい。 →記載項目が同じ分量になると思うので、保護者の方で工夫してバインダーで綴るなど、検討していきたい。児と者でサポートファイルの入手先が異なるので、関係機関への周知というところも考えていきたい。 ・必要時に必要な部分をダウンロードという理解でよい。保護者にとって混在している状態であれば、バインダーがあった方がよい。当初バインダーを配ると聞いていたがどうなったか。 →ダウンロードの形式について、基本的にはライフステージごとにデータを分割してホームページに掲載する。必要なところを活用していただくように、周知も行う。昨年度まで、バインダーを含め、検討していたが、予算の折り合いがつかなかった。ただ、今後もニーズがあれば予算要望していく。 ・サポートファイルは、基礎資料として役に立つ、年金を貰うためにわかりやすい資料になっていく等、意味をどれだけ伝えられるかが大事。 ・母子手帳が電子化していく流れもあるが、サポートファイルはどうか。保護者の中には、紙に記載することが苦手な方もいる。時代の変化にも対応できるように、電子化の重要性を忘れないでほしい。 →電子化について検討したが、親の会より紙が記載しやすいとの意見もあったため、まずは紙で進める予定。 ・緊急時にこれがないと困るということを想定し、当初検討していたと思うが、他自治体のファイルも参考に、その点を視野に入れたものを作成して欲しい。 →緊急時について、所管課だけではなく、全庁的に係る内容であるため、引き続き関係部署と連携して検討する。
今後の方向性	・配布、使用状況、学校生活支援シートとの併用方法など、サポートファイルについて、適宜、報告を行う。 ・サポートファイルと学校生活支援シート等学校書類等の共通事項について、保護者への説明時に、混乱が生じないように留意する。 ・先行する他区の情報も確認しながら、導入していく。 ・記録の資料が散財してしまうことが懸念されるため、今後の使用状況によって、バインダーもしくはそれに代わるものを検討していく。

議題名	児童発達支援事業所連絡会及び放課後等デイサービス事業所連絡会について
概要	児童発達支援事業所連絡会及び放課後等デイサービス事業所連絡会の協議内容を報告した。児童発達支援事業所連絡会は、発達支援事業所との話し合い、情報共有の場がなかったため、事業所間連携として令和4年度から開催した。
主な意見	・発達支援事業所連絡会に区が関わってくれたことは、ありがたい。事業所数が増え、利用者数が増えているので、定期的に開催していきたい。 ・児童発達支援の利用について、福祉事務所で他自治体の状況を知るため、アンケートの実施を検討中。事業所が増えている中、区のルールを見直さなければならないと考えている。結果を踏まえ、区の方針を決め、連絡会に報告していく。 ・選択肢が広がればいいと思う反面、支給日数を保護者だけが管理していくことが課題。保護者だけでは難しいため、事業所同士の連携が必要と感じる。
今後の方向性	事業所が増え、利用状況が多様化しているため、家庭状況に応じたより良い支援を構築していく。引き続き、障がい児部会において、適宜、連絡会の報告を行う。